

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	安全な血液の安定供給を目指した血液事業の今後の在り方に関する研究 (安全な血液の安定供給を目指した血液事業の今後の在り方に関する研究)
研究期間 (西暦)	2019年3月～2021年3月31日
研究機関名	日本赤十字社 血液事業本部
研究責任者職氏名	経営会議委員 日野 学

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

輸血に使用される血液をはじめとした血液製剤の安全性と安定供給を基盤とし、現状及び将来を見据えて今後の血液事業の在り方を総合的に研究し、政策提言することを目的としています。現在、採血後の血液は、血清学的検査およびNAT（ウイルスの遺伝子を増やして献血血液中にB型及びC型肝炎ウイルスやエイズウイルスが存在するか否かを調べる検査）等を行うことにより安全性を確保していますが、それぞれの検査の費用対効果を算出し、その必要性の度合いを正確に把握することは、今後の血液事業運営に不可欠なことです。今後、血液事業のグローバル化が進む中、無駄のない効率的な製剤化をめざし、検査項目の精査、規定の修正等を行うためのデータ分析です。得られた成果は、血液事業の安全性の向上と医療機関への血液製剤の安定供給に寄与します。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

- ①献血者自身に関する情報（献血者コード、年齢、性別、身長、体重、生年月日、都道府県、市区町村）
- ②献血情報（採血日、採血番号、検査結果（ALT、 γ -GTP、NAT、HBs抗原、HBc抗体、HCV抗体、HIV-1/2抗体、HTLV-1抗体、梅毒、B19）、献血回数、献血場所）

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

東京医科歯科大学 大学院 政策科学分野 教授 河原 和夫
日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター 所長 中島 一格

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析： 行いません。 行います。

《研究方法》

- ①2017年1月1日から2018年3月31日に献血に協力をいただいた方を対象とし、献血者情報を抽出します。
- ②抽出されたデータと検査試薬、検査機械等の費用を使って各検査の費用対効果を算出します。
- ③ALT検査値に異常が見られるデータから、影響を与える因子を見つけ出します。

5 献血情報の使用への拒否について

血液の使用はありません。研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回ができます。なお、個々人のデータを基としますが、特定の個人のデータ分析は行

いません。

- 6 上記5を受け付ける方法
下記の問い合わせ先にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社 血液事業本部 経営企画部 事業戦略室
担当者	鹿野 千治
電話	03-3437-7579
Mail	c-kano@jrc.or.jp